

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自己と他者を大切にできる豊かな感性を育て、確かな学力と主体的に自己実現・社会貢献できる生徒を育む

- 1 人生を自ら切り拓いていく人間性を育み人権意識を絶えず見つめ直す生徒・教職員の育成
- 2 「認め合い、尊重し、協働していく」学びを社会に活かし、人間性を醸成できる生徒の育成
- 3 「ともに学び、ともに育つ」教育を推進し、多様な学びの場を保障し相互理解できる生徒の育成

2 中期的目標

1 学びに向かう力・人間性等の涵養（感染症対策を継続し、生徒・教員の1人1台端末を活用しICTを効果的に取入れる）

- (1) 生徒相互にとって安全で安心な『**学びの場**』 《人権意識の育成。老朽化施設の修理》
 - ア 基本的なコミュニケーションの取り方と実践を生徒の主体的な行事・体験活動で育成。大阪府総合学科研究発表大会への取り組み
 - イ 貧困、虐待、ヤングケアラー等の課題に対し、個々に応じた支援《信頼関係に基づく指導、支援体制と安心して学べる環境整備を充実》
- (2) 教職員の意識改革と生徒の健康管理を徹底（働き方改革の取り組み→全校一斉定時退庁日の徹底 / 長時間勤務縮減は産業医と協同し対応）
 - ア 生活習慣の確立のため生徒・保護者・教職員との主体的な連携《一人ひとりのニーズに応じた支援の充実は学校生活全般で計画》
 - イ 生徒のバランスのとれた心身の成長と自主性の育成で体力づくりを推進《「部活動大阪モデル」の多様な形と最適化を体験活動等も含め検討》
- (3) 規範意識の醸成と個々の生徒のニーズに応じた支援体制（生徒に向き合う時間確保…家庭訪問等・定例会議・役割分担のさらなる見直しを実践）
 - ア 「規範意識の醸成」は生徒・教職員・保護者のニーズや対話等を活かし、学校運営協議会の意見を元に、画一的にならないルール等を運用
 - イ 「通級指導教室」は、個々の教育的ニーズに応じた支援の充実を図る将来の自立と社会参加をめざす《通級指導の成果の共有と活用を拡げる》
 - ウ 教育相談・人権推進委員会の体制を基本に進路選択支援の充実。ICT活用した教員研修の充実・共有・発展《将来構想への取り組み》

2 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実（自己有用感を生徒に実感できるようSDGs関連で持続可能な開発目標への取り組み）

- (1) 「部活動大阪モデル・ステージ1」への取り組みや生徒会活動を中心とした地域との協働《Web ページブログ等の写真・情報発信をチームで対応》
 - ア 生徒の興味・関心の高い意見を採り入れ、体育祭や文化祭として検討する。生徒会等を中心に運営し、主体的な活動に改善
 - イ ボランティアや地域との連携を図る活動の充実 《地域に密着した活動や挨拶運動、お掃除ボランティアなど》
 - ウ 体験的な行事、情操教育の啓発を授業作品の展示や生徒会活動、有志の活動など横断的に活性化を図る
- (2) 発達段階に応じた系統的なキャリア教育の推進（新しい社会を切り拓く力で自己実現を図る。外部人材等の活用と地域・大学・企業等との連携）
 - ア 職業観・勤労観を養い将来の自分の生き方について、地域資源の活用など、特色化・魅力化に取組むため、多様な経験や専門性人材の活用
 - イ 教科学習を基本に「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」の体験的な行事など、あらゆる教育活動を生徒の『**気づきの場**』に繋げる
 - ウ 社会で生きて働く知識・技能を習得、未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力等を育成。ICTを活用し「学びに向かう環境の充実」
 - エ 進路希望に応じ1人2社制への適切な情報を提供し、自己の適性能力を発展させ学びの深化を図る（進路決定率 令和7年度 85%以上）
《令和2年度 78.4%、令和3年度 78.2%、令和4年度 83.9%》

3 より良い社会人に向けて、学校生活全般のスクールミッションの確立（学びに向かう環境づくりを充実）

- (1) エンパワメントスクールとしての魅力づくりの情報発信と指導と評価の一体化をPDCAサイクルによる授業改善に繋げる
 - ア 授業に電子黒板等ICTを活用し「できた。わかった。もっとできる」など観点別学習状況を活かし、がんばっている生徒に対する取り組みを奨励
 - イ 授業改善においては「総合的な探究の時間」をはじめ、全ての教科・科目で探究的な対話を含む学びを充実させる
体験的な行事などにSDGsの取り組みを活用やインターンシップ等による主体性を高め、キャリアプランに結びつくように『**実践の場**』を充実
 - ウ 生徒の学びと育ちを支援に繋げ「進級・卒業」の取り組みや追認補講等の制度の検証・その機会毎の時期に応じ、全ての内規等の見直しを実施
- (2) 学校広報活動や研究授業等の充実を図る《中学校訪問を含めた活動を充実、ICT活用の研究授業等で情報モラル向上と個人情報の管理を徹底》
 - ア 様々な授業手法について研鑽し、先駆的に取り組んでいる学校・イベント等の見学を実施。その情報を共有し同僚性を高める
- (3) 支援学校のセンター的機能を活かし、支援の充実を図り、障がいの有無にかかわらず、すべての生徒の教育的ニーズに応じた支援の充実
 - ア 通級PT充実と専門性の向上を課題に支援教育コーディネーターを中心に、人権尊重の視点を踏まえた、教育相談委員会の更なる充実
 - イ 将来の進路を主体的に選択できる情報提供と現場実習等の体験学習を充実させるとともに「個別的教育支援計画」等の作成をチームで対応

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|---|---|
| <p>「学校行事は楽しい」67.2%、「エンパワメントスクールに入学してよかった」の数値が67.5%で、昨年度より若干低下したが、コロナ明けにより最高値であったのが日常的に戻ったと推察できる。「担任の先生以外に相談できる」の生徒数値が62.3%と微減だが、個々に応じた相談業務が奏功していると考え。「努力したことをほめてくれる」の項目において、ともに70%弱の結果は、過去の最高値であるので、さらに肯定感アップに繋げてもらいたい。また、「先生の進路指導はわかりやすい」65.6%、教職員70.9%を機運として、さらに進路決定率に繋げるノウハウを構築していきたい。「命の大切さや社会のルールについて、学んでいる」が約70%で、18歳成人年齢や、より良い選択により、社会人にシフトしている所に生徒の成長を感じている。生徒に主体的な行動と深い対話を通じて、学校生活を充実させる仕掛けでオンリーワンをめざしていきたい。</p> | <p>第1回：令和5年5月31日（水） 住民監査請求の結果を報告・共有してもらい、備品等の管理の徹底を報告した。進路指導は一人ひとりの希望を重視する「クオリティアップ」で求人票のデジタル管理システムを導入した結果、保護者との求人内容が共有でき良かった。温暖化で、夏の頃の制服（ポロ、短パン）を検討中 第2回：令和5年11月17日（金） 制服を注意するのであれば、教員の服装もしっかりと意識してもらいたい。ものづくりを活用し、地域から頼りにされる学校をめざしてもらいたい。韓国への国際交流を計画中。 第3回：令和6年1月26日（金） 新聞掲載された通級指導のことは、通級のトップランナーとしての自覚を他の府立高校に広げようと示唆いただき、多様性のある生徒の受け入れる状況を把握し、個々の生徒に応じた教育内容・評価を進め、授業改革に焦点を充てる事の助言を受けた。</p> |

府立和泉総合高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標[R4年度値] | 自己評価 |
|-------------------------|--|---|--|---|
| 1 学びに向かう力・人間性等の涵養 | (1) 生徒相互にとって安全で安心な「学びの場」 ア 基本的なコミュニケーション イ 貧困、虐待、ヤングケアラー等の支援 | (1) 生徒相互にとって安全で安心に生活できる場と人間関係の育成・学校環境整備 ア・外部人材等を活用し、基本的なコミュニケーションを主体的に育むため、体験的な学習・行事・環境整備等を含め横断的に育成 イ・将来の進路や生活について考える機会の充実・教職員研修の実施 1/年 ・横断的に各種委員会等を通じ、学校三師の相談・連携を通じ適切な支援を行う | (1) 新しい居場所の「ホットスペース」を通級等に活用し充実 学校環境整備の継続 ア・コグトレ等・SC/SSWの活用 [67回] イ・学校教育自己診断の「将来の進路や生活について考える」[生徒71.2%] ・貧困、虐待、ヤングケアラー等の支援 ・保健委員会等開催[1回/年] 学校三師との相談・連携等を行う | (1) 新しい居場所「ホットスペース」を通級等に活用し充実 (○) 新相談室の空設置 (○) ア・コグトレ等・SC/SSWの活用 [108回] (◎) イ・教育自己診断の「将来の進路や生活について考える」[生徒68.9%] (○) ・貧困、虐待、ヤングケアラー等の支援は事象に応じ対応(○) ・保健委員会等開催[1回/年] (○) 学校三師との相談・連携等を実施 |
| | (2) 教職員の意識改革と生徒の健康管理 ア 生活習慣の確立 イ バランスの取れた心身の成長と体力づくりの推進 (3) 規範意識醸成と生徒のニーズに応じた支援 ア 生徒の主体的な対話とルール イ 通級指導教室の充実と支援教育のノウハウを高め自立を促す ウ 教育相談・人権推進委員会の体制 教員研修の発展 | (2) 教職員の意識改革と生徒の健康管理の徹底 ア・「あいさつ運動」と健康チェック イ・健康診断で尿検査の受診率を維持 産業医等との連携や助言を活用 部活動大阪モデルへの取組み (3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制 ア・規範意識の醸成をめざして生徒・教職員との対話を重視、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、画一的にならないルール等の活用 ・保護者懇談など通じ連携を深め、寄り添い、粘り強く、支え合う指導 イ・通級指導教室の充実と支援教育のノウハウを高める認定講習等へのチャレンジ ウ・教育相談・人権委員会等とSC/SSW/CCの連携をさらに深め研修を充実。また、進路選択の際に自他の権利と基本的姿勢を実践 | (2) 全校一斉定時退庁日の啓発・徹底 在校時間管理は産業医との連携で改善 ア・生活習慣確立(感染対策を含む) イ・受診率維持 [97.1%] 多様な形と最適化な体験活動 (3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制会議を随時に開催 [9回] ア・懲戒件数の減少と画一的にならないルール等の活用 [44件] ・のべ欠席日数の減少 [10730日] ・遅刻数の減少 [21005人] イ・支援教育等の研修及び支援学校との連携 [3回/年] ウ・ケース会議充実と外部人材の組織体制の活用 [18回] 校内研修や伝達講習 [1回/年] 人権教育の成果を継承 [1回/年] | (2) 全校一斉定時退庁日の啓発・徹底 在校時間管理は産業医との連携で改善 ア・生活習慣確立(感染対策を含む) イ・受診率維持 [96.6%] (○) 部活動大阪モデル体験活動実施(○) (3) 規範意識醸成と個々の生徒への支援体制会議を随時に開催 [10回](○) ア・懲戒件数の減少と画一的にならないルール等の活用 [69件] (△) ・のべ欠席日数 [12221日] (△) ・遅刻数 [20086人] (△) イ・支援教育等の研修及び支援学校との連携[研修3回/年 連携10回] (○) ウ・ケース会議充実と外部人材の組織体制の活用 [18回] (○) 校内研修や伝達講習[3回/年] (○) 人権教育の成果を継承[3回/年] (○) |
| 2 自己肯定感の育成とキャリア教育の充実 | (1) 生徒会の地域との協働・部活動 ア 体育祭文化祭の主体的な活動 イ ボランティア活動の充実・発展 ウ 体験的行事・情操教育 (2) キャリア教育の推進 ア 職業観・勤労観と将来の自分の生き方 イ 生徒の「気づきの場」の機会 ウ 未知の状況に対応できる思考力・判断力・表現力 エ 進路希望に応じた情報、自己の能力発見・学びの深化 | (1) 部活動大阪モデルステージ1の取組みと生徒会の地域と協働・行事等を活発にする ア・体育祭・文化祭の生徒会役員の当日の運営や準備期間で、教員と協力しながら活躍の機会を増やす。 イ・ボランティアや地域との連携 ウ・生徒会と協力し、部活動や体験入部に取組み、体験を通して、芸術等で作品展示を常設し、情操教育の充実を図る (2) 系統的なキャリア教育 ア・地元企業と協力やキャリアコーディネーターの外部人材の活用し、1人2社制受験への対応 イ・外部講師によるガイダンスや講演を活用し自己の進路に対する啓発を行う ・資格取得への参加を促し、進路に向けた動機付けを行う ウ・コミュニケーション力・キャリア意識を促す情報編集力の育成 エ・場面に応じた適切な言葉を選択できるよう、寄り添い、粘り強く面接指導・プレゼンの発表機会の充実にソーシャルスキルトレーニング(SST)を活用する | (1) 部活動大阪モデルと生徒会活動行事等で地域と協働 ア・学校教育自己診断の「文化祭・体育祭等学校行事は楽しい」の向上 [生徒74.9%][教職員67.9%] イ・地域等の交流 1回/年 (地域小中学校等の連携を含む) ウ・年間を通じて工業作品、芸術、家庭科等の作品展示を実施 (2) 系統的なキャリア教育推進 ア・外部人材等との学年団等の連携をオンライン面接を含め実施 [187回] イ・学校斡旋就職希望者の合格者を85%以上とする [80%] ・資格取得者の維持 [32人] ウ・1人1台端末を活用し、情報編集力のためWeb会議システムを構築 エ・就職面接練習参加率 [100%] ・進路決定率 [83.9%] ・プレゼン活用したコミュニケーション力のアップを随時実施[4回] | (1) 部活動大阪モデルと生徒会活動行事等で地域と協働[9回/年] (○) ア・学校教育自己診断の「文化祭・体育祭等学校行事は楽しい」 [生徒67.2%][教職員63.8%] (△) イ・地域等の交流 2回/年 (○) (地域小中学校等の連携を含む) ウ・年間を通じて工業作品、芸術、家庭科等の作品展示を実施 (2) 系統的なキャリア教育推進 ア・外部人材等との学年団等の連携をオンライン面接を含め実施 [196回] (○) イ・学校斡旋就職希望者の合格者 [87%] (◎) ・資格取得者 [34人] (○) ウ・1人1台端末を活用し、進路指導部で求人票のデジタル管理システムを活用して情報収集 (○) エ・就職面接練習参加率 [100%] (○) ・進路決定率 [82.5%] (△) ・プレゼン活用したコミュニケーション力のアップを随時実施 [4回] (○) |

府立和泉総合高等学校

| | | | | |
|--|--|--|--|---|
| <p>3 より良い社会人に向けて、学校生活全般のスクールミッションの確立</p> | <p>(1) 魅力づくりの情報発信と指導と評価の一体化 PDCA サイクルの授業改善 ア「できた。わかった。もっとできる」がんばった生徒奨励 イ SDGs の取組みと全ての教科等で探究的な対話を「実践の場」で活用 (2) 学校広報活動や研究授業の充実 ア 授業手法研鑽、先駆的な学校・同僚性の向上 (3) 支援学校のセンター的機能の活用と専門性向上 ア 教育相談委員会の充実、第2相談室 イ 「個別の教育支援計画」の活用</p> | <p>(1) 魅力づくりの情報発信と指導と評価の一体化 観点別学習状況評価に主体的・対話的な深い、確かな学力の育成と授業改善に繋げる ア・授業に指導と評価の一体化が判るように具体例を示し、実践を通じ同僚性を高める 定期考査の再考と観点別学習評価等の検証 がんばった生徒奨励の機会の実践 イ・体験的な行事などに SDGs の取組みを活用。 キャリアプラン結びつく「実践の場」の充実・定着や各部各系列等の展示発表に取り組む ウ 生徒の学びと支援し、自己肯定感の醸成 (2) 学校の広報活動として Web ページの充実発展 ア・教員相互が授業等に関する意見交換で同僚性のアップ ・ ICT 活用を1人1台端末の対応し、学びの深化にグループウェアと学習支援クラウドサービスの活用定着 (3) 支援学校のセンター的機能を活用し、通級指導教室の PT 充実と専門性の向上 ア・支援コーディネーター、人権推進委員の連携した組織の取組み。第2相談室の検討 イ・現場実習等の体験学習の充実と「個別の教育支援計画」の活用</p> | <p>(1) 観点別学習状況評価に ICT を効果的に活用し、確かな学力の育成と授業改善 ア・「チームチャレンジ」PT を中心に指導と評価の一体化の授業実践に合致した研究授業と協議 [2回] がんばった生徒奨励の機会[2回] イ・体験的な行事などに SDGs の取組みを活かし、「実践の場」の定着 ・学校教育自己診断の「学校が楽しい」で満足度を図る [64.9%] ウ・1年次の進級者数向上 [177人/213人 進級83.1%] (2) 学校広報活動、Web ページの充実 ア 授業手法研鑽、学校・イベントの見学情報の共有で同僚性を高める ・自己診断の「エンパワメントスクールに来てよかった」2%増加 [71.1%] ・グループウェアの校内活用 [8回/年] ・学習支援クラウドサービス定着 [64回] 表計算ソフトを新たに検討 (3) 支援学校のセンター的機能と通級の専門性向上 ア・地域の支援学校との連携 [17回] 校内委員会等での学習会[5回]程度 ・第2相談室の活用発展 イ・現場実習等の体験学習の充実[4人] ・「個別の教育支援計画」の作成活用 [5人]</p> | <p>(1) 観点別学習状況評価に ICT を効果的に活用し確かな学力の育成と授業改善 ア・「チームチャレンジ」PT を中心に指導と評価の一体化の授業実践に合致した研究授業と協議[2回] (○) がんばった生徒奨励の機会 [3回] (◎) イ・体験的な行事などに SDGs の取組みを活かし、「実践の場」の定着 (○) ・学校教育自己診断の「学校が楽しい」 [59.8%] (△) ウ・1年次の進級者数向上 [172/207人 進級83.1%] (○) (2) 学校広報活動、Web ページの充実 ア 授業手法研鑽、学校・イベントの見学情報の共有で同僚性を高める ・自己診断の「エンパワメントスクールに来てよかった」 [67.5%] (△) ・グループウェアの校内活用 [9回/年] (○) ・学習支援クラウドサービス定着 [224回] (◎) 表計算ソフトを新たに検討 (3) 支援学校のセンター的機能と通級の専門性向上 ア・地域の支援学校との連携 [15回] (○) 校内委員会等での学習会 [5回] (○) ・第2相談室の活用発展 (○) イ・現場実習等の体験学習の充実 [7人] (○) ・「個別の教育支援計画」の作成活用 [27人] (◎)</p> |
|--|--|--|--|---|